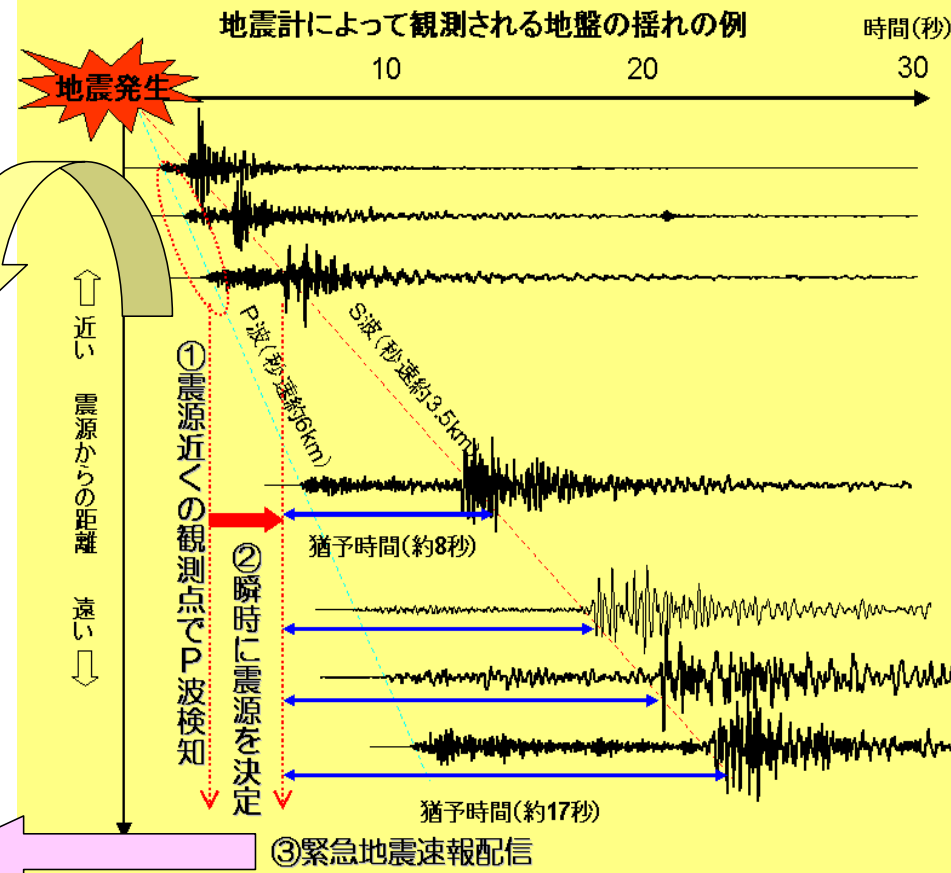
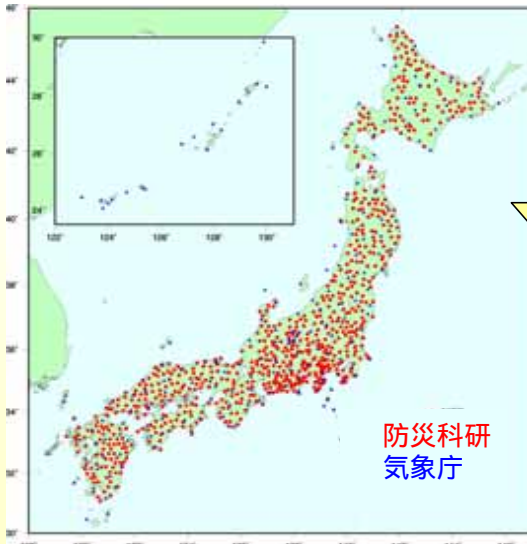


平成19年10月1日から、緊急地震速報の提供が始まりますが、この緊急地震速報が実現するまでには、気象庁や防災科学技術研究所などによって、様々な研究開発が進められてきました。ここでは、平成15年度から5年かけて行われている文部科学省の「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」の成果を中心に、緊急地震速報の仕組みについて紹介します。

全国に展開された地震観測網でP波を検知

地震はいつどこで発生するか事前に予測するのは難しいものです。そこで緊急地震速報では、全国に展開されている地震観測網(防災科研:約800点、気象庁:約200点)のデータをリアルタイムで収集し、24時間常に地震の発生を監視しています。

地震が発生すると、大きな揺れ(S波)の前にやって来る揺れ(P波)を検知して、さまざまな手法を用いて、即時的に震度の推定が行われます。

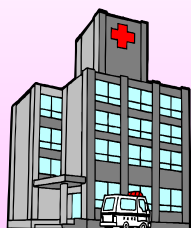


緊急地震速報の利活用

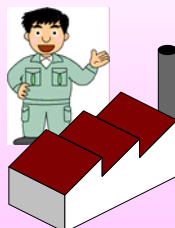
緊急地震速報が伝達されてから大きな揺れ(S波)が来るまでの間に行う防災対応については、学校や病院、工場などを対象として、防災科学技術研究所を中心に様々な分野で調査・研究を行っています。



学校での学童・職員の安全確保や防災教育



患者・医療関係者の安全確保



プラントの機器制御や作業員の安全確保

<お問い合わせ先>



独立行政法人
防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1

Tel: 029-851-1611

Fax: 029-851-1622

URL: <http://www.bosai.go.jp/>

高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト

<http://www.bosai.go.jp/kenkyu/sokuji/index.htm>

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

文部科学省 研究開発局
地震・防災研究課
防災科学技術推進室

〒100-8959 東京都千代田区
丸の内2-5-1

Tel: 03-6734-4134

Fax: 03-6734-4139